

付表 2-2 取付け可能梁の一覧 (外法一定 H 形鋼 : フランジ幅 200mm&250mm)

KH-コラムジョイントサイズ		KHC300				KHC350				KHC400				KHC450				KHC500				KHC550				KHC600											
柱サイズ		□-306×36				□-356×40				□-406×45				□-456×50				□-506×55				□-556×60				□-606×65											
照査対象		□-300×6~12				□-350×9~12				□-400×9~25				□-450×9~25				□-500×9~25				□-550×12~25				□-600×9~36											
照査対象		□-300×6~22				□-350×9~22				□-400×25				□-450×25~28				□-500×25~28				□-550×25~28				□-600×9~36											
照査対象		□-300×9~19				□-350×9~22				□-400×9~25				□-450×9~28				□-500×9~28				□-550×9~32				□-600×9~36											
照査対象		□-300×9(STKR400)				□-350×9(STKR400)				□-400×9(BCP235)				□-450×12(BCP235)				□-500×12(BCP235)				□-550×12(BCP235)				□-600×16(BCP235)											
梁サイズ	梁鋼種	SS400				SN400				SM490				SS400				SN400				SM490				SS400				SN400				SM490			
		H- 400 x 200 x 9 x 12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- <注>
- 「柱サイズ」の最下行「照査対象」に記載されたサイズと鋼種は、梁の取付け可否の計算で使用したものである。
 - 「照査対象」は、同じ柱幅の中で板厚が最も薄いサイズで、F 値の最も小さい鋼種としている。つまり、最も接合部耐力が小さくなる条件での梁の取付け可否を検討している。ただし、幅厚比種別が FD の柱は除いている。
 - 「○」印は、この梁サイズ・梁鋼種と柱サイズ欄に記載された全ての柱との組合せが、無条件で適用可能であることを示す。ただし、幅厚比種別が FD の柱を用いると適用不可となる場合がある。
 - 記号の代わりに「数値」が記載されている場合は、この組合せは適用可能だが、当該梁の断面検定の際には、梁の降伏曲げ耐力 bM_y にこの数値を掛けて低減した耐力を梁端接合部の短期許容曲げ耐力 bM_a とする必要があることを示す。
 - 「-」印は、上下の柱を「照査対象」のサイズ・鋼種とした場合には適用不可であることを示す。ただし、照査対象柱よりも厚い板厚と F 値の大きな鋼種および必要最小余長よりも大きい余長で計算すると、適用可能となる場合がある。
 - 「×」印は、フランジ幅が KH-コラムジョイント幅を超えるため、適用不可である。

付表 2-3 取付け可能梁の一覧（外法一定 H 形鋼：フランジ幅 300mm）

KH-コラムジョイントサイズ		KHC300				KHC350				KHC400				KHC450				KHC500				KHC550				KHC600																		
柱サイズ		□-306×36				□-356×40				□-406×45				□-456×50				□-506×55				□-556×60				□-606×65																		
照査対象		□-300×6~12				□-350×9~12				□-400×9~25				□-450×9~25				□-500×9~25				□-550×12~25				□-600×9~36																		
照査対象		□-300×6~22				□-350×9~22				□-400×25				□-450×25~28				□-500×25~28				□-550×25~28				□-600×9~36																		
照査対象		□-300×9~19				□-350×9~22				□-400×9~25				□-450×9~28				□-500×9~28				□-550×9~32				□-600×9~36																		
照査対象		□-300×9(STKR400)				□-350×9(STKR400)				□-400×9(BCP235)				□-450×12(BCP235)				□-500×12(BCP235)				□-550×12(BCP235)				□-600×16(BCP235)																		
梁サイズ	梁鋼種	SS400				SN400				SM490				SS400				SN400				SM490				SS400				SN400				SM490										
		H 500 x 300 x 12 x 16	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○

- <注>
- 「柱サイズ」の最下行「照査対象」に記載されたサイズと鋼種は、梁の取付け可否の計算で使用したものである。
 - 「照査対象」は、同じ柱幅の中で板厚が最も薄いサイズで、F 値の最も小さい鋼種としている。つまり、最も接合部耐力が小さくなる条件での梁の取付け可否を検討している。ただし、幅厚比種別が FD の柱は除いている。
 - 「○」印は、この梁サイズ・梁鋼種と柱サイズ欄に記載された全ての柱との組合せが、無条件で適用可能であることを示す。ただし、幅厚比種別が FD の柱を用いると適用不可となる場合がある。
 - 記号の代わりに「数値」が記載されている場合は、この組合せは適用可能だが、当該梁の断面検定の際には、梁の降伏曲げ耐力 bM_y にこの数値を掛けて低減した耐力を梁端接合部の短期許容曲げ耐力 bM_a とする必要があることを示す。
 - 「-」印は、上下の柱を「照査対象」のサイズ・鋼種とした場合には適用不可であることを示す。ただし、照査対象柱よりも厚い板厚と F 値の大きな鋼種および必要最小余長よりも大きい余長で計算すると、適用可能となる場合がある。
 - 「×」印は、フランジ幅が KH-コラムジョイント幅を超えるため、適用不可である。

